

試験ガイド (CLF-C02)

AWS Certified Cloud Practitioner



AWS Certified Cloud Practitioner: 試験ガイド (CLF-C02)

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon's trademarks and trade dress may not be used in connection with any product or service that is not Amazon's, in any manner that is likely to cause confusion among customers, or in any manner that disparages or discredits Amazon. All other trademarks not owned by Amazon are the property of their respective owners, who may or may not be affiliated with, connected to, or sponsored by Amazon.

Table of Contents

AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02)	1
はじめに	1
受験対象者について	2
推奨される AWS の知識	2
受験対象者にとって試験対象外となるジョブタスク	2
試験内容	2
採点対象外の設問	3
試験の結果	3
試験内容の概要	3
サービスリファレンス	4
コンテンツ分野 1: クラウドのコンセプト	4
タスクステートメント 1.1: AWS クラウドの利点を定義する。	4
タスクステートメント 1.2: AWS クラウドの設計原則を特定する。	5
タスクステートメント 1.3: AWS クラウドへの移行の利点と戦略を理解する。	5
タスクステートメント 1.4: クラウドエコノミクスのコンセプトを理解する。	5
コンテンツ分野 2: セキュリティとコンプライアンス	6
タスクステートメント 2.1: AWS の責任共有モデルを理解する。	6
タスクステートメント 2.2: AWS クラウドのセキュリティ、ガバナンス、コンプライアンス のコンセプトを理解する。	7
タスクステートメント 2.3: AWS アクセス管理機能を特定する。	7
タスクステートメント 2.4: セキュリティのためのコンポーネントとリソースを特定す る。	8
コンテンツ分野 3: クラウドテクノロジーとサービス	8
タスクステートメント 3.1: AWS クラウドでのデプロイと運用の方法を定義する。	9
タスクステートメント 3.2: AWS のグローバルインフラストラクチャを定義する。	9
タスクステートメント 3.3: AWS のコンピューティングサービスを特定する。	10
タスクステートメント 3.4: AWS データベースサービスを特定する。	10
タスクステートメント 3.5: AWS のネットワークサービスを特定する。	11
タスクステートメント 3.6: AWS ストレージサービスを特定する。	11
タスクステートメント 3.7: AWS の人工知能および機械学習 (AI/ML) サービスと分析サービ スを特定する。	12
タスクステートメント 3.8: 試験対象内のその他の AWS のサービスカテゴリを特定す る。	12
コンテンツ分野 4: 請求、料金、サポート	13

タスクステートメント 4.1: AWS 料金モデルを比較する。	13
タスクステートメント 4.2: 請求、予算、コスト管理のためのリソースを理解する。	14
タスクステートメント 4.3: AWS の技術リソースと AWS サポートオプションを特定する。	14
テクノロジーと概念	15
対象の AWS サービス	16
分析	17
アプリケーション統合	17
ビジネスアプリケーション	18
クラウド財務管理	18
コンピューティング	18
コンテナ	18
カスタマイズ可能な	18
データベース	18
デベロッパーツール	19
エンドユーザーコンピューティング	19
フロントエンドのウェブとモバイル	19
IoT (モノのインターネット)	19
機械学習	19
マネジメントとガバナンス	20
移行と転送	20
ネットワークとコンテンツ配信	21
セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス	21
サーバーレス	22
ストレージ	22
対象外の AWS サービス	23
分析	23
アプリケーション統合	24
ビジネスアプリケーション	24
コンピューティング	24
コスト管理	24
カスタマイズ可能な	24
クラウド財務管理	25
データベース	25
デベロッパーツール	25
ゲーム関連テクノロジー	25

IoT (モノのインターネット)	25
機械学習	25
マネジメントとガバナンス	26
メディアサービス	26
移行と転送	26
ネットワークとコンテンツ配信	26
セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス	27
ロボティクス	27
ストレージ	27
アンケート	27

AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02)

AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02) 試験は、職務を問わず、AWS クラウドに関する総合的な理解を効果的に実証できる方を対象としています。

トピック

- [はじめに](#)
- [受験対象者について](#)
- [試験内容](#)
- [試験内容の概要](#)
- [サービスリファレンス](#)
- [コンテンツ分野 1: クラウドのコンセプト](#)
- [コンテンツ分野 2: セキュリティとコンプライアンス](#)
- [コンテンツ分野 3: クラウドテクノロジーとサービス](#)
- [コンテンツ分野 4: 請求、料金、サポート](#)
- [テクノロジーと概念](#)
- [対象の AWS サービス](#)
- [対象外の AWS サービス](#)
- [アンケート](#)

はじめに

[AWS Certified Cloud Practitioner \(CLF-C02\)](#) 試験は、職務を問わず、AWS クラウドに関する総合的な理解を効果的に実証できる方を対象としています。

また、次のタスクについての受験者の能力も検証します。

- AWS クラウドの価値を説明する。
- AWS の責任共有モデルを理解し、説明する。
- AWS Well-Architected フレームワークを理解する。
- セキュリティのベストプラクティスを理解する。
- AWS クラウドのコスト、エコノミクス、請求方法を理解する。

- コンピューティングサービス、ネットワークサービス、データベースサービス、ストレージサービスなど、AWS の主要なサービスを説明し、位置付ける。
- 一般的なユースケース向けの AWS のサービスを特定する。

受験対象者について

本認定は、AWS クラウドの設計、実装、オペレーションの経験が 6 か月以下の方を対象としています。AWS クラウドのキャリアの初期段階にある方や、AWS クラウドで役割を担う人々と一緒に仕事をしている方が対象になり得ます。

推奨される AWS の知識

受験対象者は、次の分野における AWS の知識を有している必要があります。

- AWS クラウドのコンセプト
- AWS クラウドにおけるセキュリティとコンプライアンス
- AWS の主要なサービス
- AWS クラウドのエコノミクス

受験対象者にとって試験対象外となるジョブタスク

受験対象者が実施できることが想定されていないジョブタスクは、次のリストのとおりです。このリストはすべてを網羅しているわけではありません。次のタスクは、本試験の範囲外です。

- コーディング
- クラウドアーキテクチャの設計
- トラブルシューティング
- 実装
- 負荷テストとパフォーマンステスト

試験内容

試験には次の 2 種類の設問があります。

- 択一選択問題: 正しい選択肢が 1 つ、誤った選択肢 (不正解) が 3 つ提示される。

- 複数選択問題: 5 つ以上の選択肢のうち、正解が 2 つ以上ある。

設問の記述に最もよく当てはまるもの、または正解となるものを 1 つ以上選択します。不正解の選択肢は、知識や技術が不十分な受験者が選択してしまいそうな、設問内容と一致するもっともらしい解答になっています。

未解答の設問は不正解とみなされます。推測による解答にペナルティはありません。試験には、スコアに影響する設問が 50 問含まれています。

採点対象外の設問

試験には、スコアに影響しない採点対象外の設問が 15 問含まれています。AWS では、これら採点対象外の設問における成績情報を収集し、これらの設問を今後採点対象の設問として使用できるかどうかを評価します。試験では、どの設問が採点対象外かは受験者にわからないようになっています。

試験の結果

AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02) 試験は、合否判定方式です。試験の採点は、認定業界のベストプラクティスおよびガイドラインに基づいた、AWS の専門家によって定められる最低基準に照らして行われます。

試験の結果は、100～1,000 の換算スコアとして報告されます。合格スコアは 700 です。このスコアにより、試験全体の成績と合否がわかります。複数の試験間で難易度がわずかに異なる可能性があるため、スコアを均等化するために換算スコアが使用されます。

スコアレポートには、各セクションの成績を示す分類表が含まれる場合があります。試験には補整スコアリングモデルが使用されるため、セクションごとに合否ラインは設定されておらず、試験全体のスコアで合否が判定されます。

試験の各セクションには特定の重みが設定されているため、各セクションに割り当てられる設問数が異なる場合があります。分類表には、受験者の得意分野と不得意分野を示す全般的な情報が含まれます。セクションごとのフィードバックを解釈する際は注意してください。

試験内容の概要

この試験ガイドには、試験に設定された重み、コンテンツ分野、タスクステートメントについての説明が含まれています。本ガイドは、試験内容の包括的なリストを提供するものではありません。ただし、各タスクステートメントの追加情報を使って、試験の準備に役立てることができます。

本試験のコンテンツ分野と重み設定は、次のとおりです。

- [コンテンツ分野 1: クラウドのコンセプト \(採点対象コンテンツの 24%\)](#)
- [コンテンツ分野 2: セキュリティとコンプライアンス \(採点対象コンテンツの 30%\)](#)
- [コンテンツ分野 3: クラウドテクノロジーとサービス \(採点対象コンテンツの 34%\)](#)
- [コンテンツ分野 4: 請求、料金、サポート \(採点対象コンテンツの 12%\)](#)

サービスリファレンス

次のセクションでは、本認定試験に関連する AWS のサービス、テクノロジー、概念について詳しく説明します。

- [対象の AWS サービス](#)
- [対象外の AWS サービス](#)
- [テクノロジーと概念](#)

コンテンツ分野 1: クラウドのコンセプト

第 1 分野は、クラウドのコンセプトに関する設問で構成されており、試験の採点対象コンテンツの 24% を占めています。

タスク

- [タスクステートメント 1.1: AWS クラウドの利点を定義する。](#)
- [タスクステートメント 1.2: AWS クラウドの設計原則を特定する。](#)
- [タスクステートメント 1.3: AWS クラウドへの移行の利点と戦略を理解する。](#)
- [タスクステートメント 1.4: クラウドエコノミクスのコンセプトを理解する。](#)

タスクステートメント 1.1: AWS クラウドの利点を定義する。

対象知識:

- AWS クラウドの価値提案

対象スキル:

- グローバルインフラストラクチャの利点の理解 (デプロイのスピード、グローバルリーチなど)
- 高可用性、伸縮性、俊敏性の利点の理解

タスクステートメント 1.2: AWS クラウドの設計原則を特定する。

対象知識:

- AWS Well-Architected フレームワーク

対象スキル:

- Well-Architected フレームワークの柱の理解 (運用上の優秀性、セキュリティ、信頼性、パフォーマンス効率、コスト最適化、持続可能性など)
- Well-Architected フレームワークのさまざまな柱の相違点の特定

タスクステートメント 1.3: AWS クラウドへの移行の利点と戦略を理解する。

対象知識:

- クラウド導入戦略
- クラウド移行ジャーニーをサポートするリソース

対象スキル:

- AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF) のコンポーネントの理解 [ビジネスリスクの軽減、環境・社会・ガバナンス (ESG) パフォーマンスの向上、収益の増大、運用効率の向上など]
- 適切な移行戦略の特定 (データベースのレプリケーション、AWS Snowball の使用など)

タスクステートメント 1.4: クラウドエコノミクスのコンセプトを理解する。

対象知識:

- クラウドエコノミクスの側面
- クラウド移行によるコスト削減

対象スキル:

- 変動費と引き合わせた固定費の役割の理解
- オンプレミス環境に関連するコストの理解
- さまざまなライセンス戦略の相違点の理解 [Bring Your Own License (BYOL) モデルとライセンス込みモデルの比較など]
- 適切なサイジングのコンセプトの理解
- オートメーションの利点の特定
- 規模の経済についての理解 (コスト削減など)

コンテンツ分野 2: セキュリティとコンプライアンス

第 2 分野は、セキュリティとコンプライアンスに関する設問で構成されており、試験の採点対象コンテンツの 30% を占めています。

タスク

- [タスクステートメント 2.1: AWS の責任共有モデルを理解する。](#)
- [タスクステートメント 2.2: AWS クラウドのセキュリティ、ガバナンス、コンプライアンスのコンセプトを理解する。](#)
- [タスクステートメント 2.3: AWS アクセス管理機能を特定する。](#)
- [タスクステートメント 2.4: セキュリティのためのコンポーネントとリソースを特定する。](#)

タスクステートメント 2.1: AWS の責任共有モデルを理解する。

対象知識:

- AWS の責任共有モデル

対象スキル:

- AWS 責任共有モデルのコンポーネントの認識
- AWS におけるお客様の責任の説明
- AWS の責任の説明
- お客様と AWS が共有する責任の説明
- 使用するサービス (Amazon RDS、AWS Lambda、Amazon EC2 など) に応じて、AWS の責任とお客様の責任がどのように変化するかの説明

タスクステートメント 2.2: AWS クラウドのセキュリティ、ガバナンス、コンプライアンスのコンセプトを理解する。

対象知識:

- AWS のコンプライアンスとガバナンスのコンセプト
- クラウドセキュリティの利点 (暗号化など)
- クラウドのセキュリティ関連のログをキャプチャし、検索する場所

対象スキル:

- AWS のコンプライアンス情報を確認できる場所の特定 (AWS Artifact など)
- さまざまな地理的な場所や業界のコンプライアンスのニーズについての理解 (AWS のコンプライアンスなど)
- お客様が AWS リソースを保護する方法の説明 (Amazon Inspector、AWS Security Hub、Amazon GuardDuty、AWS Shield など)
- 暗号化オプションの特定 (転送時の暗号化、保管時の暗号化など)
- ガバナンスとコンプライアンスに役立つサービスの認識 (Amazon CloudWatch を使用したモニタリング、AWS CloudTrail、AWS Audit Manager、AWS Config による監査、アクセスレポートを使用したレポート作成など)
- AWS サービスによって異なるコンプライアンス要件の認識

タスクステートメント 2.3: AWS アクセス管理機能を特定する。

対象知識:

- アイデンティティとアクセスの管理 [AWS Identity and Access Management (IAM) など]
- AWS ルートユーザーアカウントを保護することの重要性
- 最小権限の原則
- AWS IAM アイデンティティセンター (AWS Single Sign-On)

対象スキル:

- アクセスキー、パスワードポリシー、認証情報のストレージの理解 (AWS Secrets Manager、AWS Systems Manager など)

- AWS のさまざまな認証方法の特定 [多要素認証 (MFA)、IAM アイデンティティセンター、クロスアカウントの IAM ロールなど]
- 最小権限の原則に準拠するグループ、ユーザー、カスタムポリシー、マネージドポリシーの定義
- アカウントのルートユーザーのみが実行できるタスクの特定
- ルートユーザー保護を実現できる方法の理解
- アイデンティティ管理のタイプの理解 (フェデレーテッドなど)

タスクステートメント 2.4: セキュリティのためのコンポーネントとリソースを特定する。

対象知識:

- AWS が提供するセキュリティ機能
- AWS が提供するセキュリティに関連するドキュメント

対象スキル:

- AWS のセキュリティ機能とサービスの説明 (AWS WAF、AWS Firewall Manager、AWS Shield、Amazon GuardDuty など)
- サードパーティーのセキュリティ製品を AWS Marketplace で入手できることの理解
- AWS セキュリティ情報を入手できる場所の特定 (AWS ナレッジセンター、AWS セキュリティセンター、AWS Security Blog など)
- セキュリティの問題の特定に向けた AWS サービスの利用についての理解 (AWS Trusted Advisor など)

コンテンツ分野 3: クラウドテクノロジーとサービス

第 3 分野は、クラウドテクノロジーとサービスに関する設問で構成されており、試験の採点対象コンテンツの 34% を占めています。

タスク

- [タスクステートメント 3.1: AWS クラウドでのデプロイと運用の方法を定義する。](#)
- [タスクステートメント 3.2: AWS のグローバルインフラストラクチャを定義する。](#)
- [タスクステートメント 3.3: AWS のコンピューティングサービスを特定する。](#)

- [タスクステートメント 3.4: AWS データベースサービスを特定する。](#)
- [タスクステートメント 3.5: AWS のネットワークサービスを特定する。](#)
- [タスクステートメント 3.6: AWS ストレージサービスを特定する。](#)
- [タスクステートメント 3.7: AWS の人工知能および機械学習 \(AI/ML\) サービスと分析サービスを特定する。](#)
- [タスクステートメント 3.8: 試験対象内のその他の AWS のサービスカテゴリを特定する。](#)

タスクステートメント 3.1: AWS クラウドでのデプロイと運用の方法を定義する。

対象知識:

- AWS クラウドでのプロビジョニングと運用のさまざまな方法
- AWS サービスにアクセスするさまざまな方法
- クラウドデプロイモデルの種類

対象スキル:

- プログラムによるアクセス (API、SDK、CLI など)、AWS マネジメントコンソール、Infrastructure as Code (IaC) などのオプションの決定
- 要件を評価し、1 回限りのオペレーションと反復可能なプロセスのどちらを使用するかを判断
- デプロイモデルの特定 (クラウド、ハイブリッド、オンプレミスなど)

タスクステートメント 3.2: AWS のグローバルインフラストラクチャを定義する。

対象知識:

- AWS リージョン、アベイラビリティゾーン、エッジロケーション
- 高可用性
- 複数リージョンの使用
- エッジロケーションの利点

対象スキル:

- リージョン、アベイラビリティゾーン、エッジロケーション間の関係の説明
- 複数のアベイラビリティゾーンを使用して高可用性を実現する方法の説明
- アベイラビリティゾーン間で単一障害点が共有されないことの認識
- 複数のリージョンを使用するケースの説明 (ディザスタリカバリ、事業の継続性、エンドユーザーのための低レイテンシー、データ主権など)

タスクステートメント 3.3: AWS のコンピューティングサービスを特定する。

対象知識:

- AWS のコンピューティングサービス

対象スキル:

- さまざまな Amazon EC2 インスタンスタイプの適切な使用方法の認識 (コンピューティング最適化、ストレージ最適化など)
- さまざまなコンテナオプションの適切な使用方法の認識 [Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS)、Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) など]
- さまざまなサーバーレスコンピューティングオプションの適切な使用方法の認識 (AWS Fargate、AWS Lambda など)
- 自動スケーリングにより提供される伸縮性の認識
- ロードバランサーの目的の特定

タスクステートメント 3.4: AWS データベースサービスを特定する。

対象知識:

- AWS データベースサービス
- データベース移行

対象スキル:

- EC2 でホストするデータベースや AWS マネージドデータベースを使用すべきケースの判断
- リレーショナルデータベースの特定 (Amazon RDS、Amazon Aurora など)

- NoSQL データベースの特定 (Amazon DynamoDB など)
- メモリベースのデータベースの特定 (Amazon ElastiCache など)
- データベース移行ツールの特定 [AWS Database Migration Service (AWS DMS)、AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) など]

タスクステートメント 3.5: AWS のネットワークサービスを特定する。

対象知識:

- AWS のネットワークサービス

対象スキル:

- VPC コンポーネントの特定 (サブネット、ゲートウェイなど)
- VPC でのセキュリティの理解 (ネットワーク ACL、セキュリティグループ、Amazon Inspector など)
- Amazon Route 53 の目的の理解
- AWS へのネットワーク接続オプションの特定 (AWS VPN、AWS Direct Connect など)

タスクステートメント 3.6: AWS ストレージサービスを特定する。

対象知識:

- AWS ストレージサービス

対象スキル:

- オブジェクトストレージの用途の特定
- Amazon S3 ストレージクラスの違いの認識
- ブロックストレージソリューションの特定 [Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)、インスタンスストアなど]
- ファイルサービスの特定 [Amazon Elastic File System (Amazon EFS)、Amazon FSx など]
- キャッシュ済みファイルシステムの特定 (AWS Storage Gateway など)
- ライフサイクルポリシーのユースケースの理解
- AWS Backup のユースケースの理解

タスクステートメント 3.7: AWS の人工知能および機械学習 (AI/ML) サービスと分析サービスを特定する。

対象知識:

- AWS の AI/ML サービス
- AWS の分析サービス

対象スキル:

- AI/ML サービスと、各サービスが実行するタスクの理解 (Amazon SageMaker AI、Amazon Lex、Amazon Kendra など)
- データ分析のためのサービスの特定 (Amazon Athena、Amazon Kinesis、AWS Glue、Amazon QuickSight など)

タスクステートメント 3.8: 試験対象内のその他の AWS のサービスカテゴリを特定する。

対象知識:

- Amazon EventBridge、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)、Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS) のアプリケーション統合サービス
- Amazon Connect と Amazon Simple Email Service (Amazon SES) のビジネスアプリケーションサービス
- カスタマイズ可能なサービス (AWS サポートなど)
- デベロッパーツールのサービスと機能 (AWS CodeBuild、AWS CodePipeline、AWS X-Rayなど)
- Amazon AppStream 2.0、Amazon WorkSpaces、Amazon WorkSpaces Secure Browser のエンドユーザーコンピューティングサービス
- AWS Amplify と AWS AppSync のフロントエンドウェブとモバイルサービス
- IoT サービス (AWS IoT Core など)

対象スキル:

- メッセージの配信やアラートと通知の送信に適切なサービスの選択

- ビジネスアプリケーションのニーズを満たす適切なサービスの選択
- ビジネスサポートを支援する適切なオプションの選択
- アプリケーションの開発、デプロイ、トラブルシューティング向けツールの特定
- エンドユーザーのマシン上の仮想マシン (VM) の出力を表示できるサービスの特定
- フロントエンドサービスとモバイルサービスを作成してデプロイできるサービスの特定
- IoT デバイスを管理するサービスの特定

コンテンツ分野 4: 請求、料金、サポート

第 4 分野は、請求、料金、サポートに関する設問で構成されており、試験の採点対象コンテンツの 12% を占めています。

タスク

- [タスクステートメント 4.1: AWS 料金モデルを比較する。](#)
- [タスクステートメント 4.2: 請求、予算、コスト管理のためのリソースを理解する。](#)
- [タスクステートメント 4.3: AWS の技術リソースと AWS サポートオプションを特定する。](#)

タスクステートメント 4.1: AWS 料金モデルを比較する。

対象知識:

- コンピューティング購入オプション (オンデマンドインスタンス、リザーブドインスタンス、スポットインスタンス、AWS Savings Plans、専有ホスト、ハードウェア専有インスタンス、キャパシティの予約など)
- ストレージオプションと階層

対象スキル:

- さまざまなコンピューティング購入オプションを使用すべきケースの特定
- リザーブドインスタンスの柔軟性の説明
- AWS Organizations におけるリザーブドインスタンスの動作の説明
- 受信データ転送コストと送信データ転送コストの理解 (ある AWS リージョンから別のリージョンへの転送、同じリージョン内の転送など)
- さまざまなストレージオプションと階層の料金オプションの理解

タスクステートメント 4.2: 請求、予算、コスト管理のためのリソースを理解する。

対象知識:

- 請求サポートと情報
- AWS サービスの料金についての情報
- AWS Organizations
- AWS コスト配分タグ

対象スキル:

- AWS Budgets、AWS Cost Explorer の適切な用途と機能の理解
- AWS 料金見積りツールの適切な用途と機能の理解
- AWS Organizations の一括請求 (コンソリデेटィッドビルディング) とコスト配分の理解
- さまざまなタイプのコスト配分タグと請求レポート (AWS Cost and Usage Report など) との関係の理解

タスクステートメント 4.3: AWS の技術リソースと AWS サポートオプションを特定する。

対象知識:

- AWS 公式ウェブサイトで提供されているリソースとドキュメント
- AWS サポートプラン
- 独立系ソフトウェアベンダー (ISV) やシステムインテグレーターなどの AWS パートナーネットワークの役割
- AWS サポートセンター

対象スキル:

- AWS 公式ウェブサイトでの AWS ホワイトペーパー、ブログ、ドキュメントの検索
- AWS の技術リソースの特定と検索 (AWS 規範ガイダンス、AWS ナレッジセンター、AWS re:Post など)

- AWS のお客様向けの AWS サポートオプションの特定 (カスタマーサービスとコミュニティ、AWS デベロッパーサポート、AWS ビジネスサポート、AWS エンタープライズ On-Ramp サポート、AWS エンタープライズサポートなど)
- コスト最適化のための環境の管理とモニタリングに役立つ AWS Trusted Advisor、AWS Health Dashboard、AWS Health API の役割の特定
- AWS リソースの不正使用を報告する AWS Trust & Safety チームの役割の特定
- AWS パートナーの役割の理解 [AWS Marketplace、独立系ソフトウェアベンダー (ISV)、システムインテグレーターなど]
- AWS パートナーになる利点の特定 (パートナートレーニングと認定、パートナーイベント、パートナーボリュームディスカウントなど)
- AWS Marketplace が提供する主要なサービスの特定 (コスト管理、ガバナンス、エンタイトルメントなど)
- AWS で利用できる技術支援オプションの特定 (AWS プロフェッショナルサービス、AWS ソリューションアーキテクトなど)

テクノロジーと概念

以下は、試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念のリストです。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合もあります。このリストにおける項目の掲載順序や配置は、その項目の相対的な重みや試験における重要性を示すものではありません。

- API
- AWS クラウドへの移行の利点
- AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)
- AWS コンプライアンス
- コンピューティング
- コスト管理
- データベース
- Amazon EC2 インスタンスタイプ (リザーブドインスタンス、オンデマンドインスタンス、スポットインスタンスなど)
- AWS グローバルインフラストラクチャ (AWS リージョン、アベイラビリティゾーンなど)
- Infrastructure as Code (IaC)
- AWS ナレッジセンター

- 機械学習
- マネジメントとガバナンス
- 移行とデータ転送
- ネットワークサービス
- AWS パートナーネットワーク (APN)
- AWS 規範ガイダンス
- AWS 料金見積りツール
- AWS プロフェッショナルサービス
- AWS re:Post
- AWS SDK
- セキュリティ
- AWS Security Blog
- AWS の責任共有モデル
- AWS ソリューションアーキテクト
- ストレージ
- AWS サポートセンター
- AWS サポートプラン
- AWS Well-Architected フレームワーク

対象の AWS サービス

以下に、AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02) 試験の対象となる AWS のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合もあります。AWS のサービスは、サービスの主要機能に沿ったカテゴリに分類されています。

トピック

- [分析](#)
- [アプリケーション統合](#)
- [ビジネスアプリケーション](#)
- [クラウド財務管理](#)
- [コンピューティング](#)

- [コンテナ](#)
- [カスタマイズ可能なインフラストラクチャ](#)
- [データベース](#)
- [開発ツール](#)
- [エンドユーザーコンピューティング](#)
- [フロントエンドのウェブとモバイル](#)
- [IoT \(モノのインターネット\)](#)
- [機械学習](#)
- [マネジメントとガバナンス](#)
- [移行と転送](#)
- [ネットワークとコンテンツ配信](#)
- [セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス](#)
- [サーバーレス](#)
- [ストレージ](#)

分析

- Amazon Athena
- Amazon EMR
- AWS Glue
- Amazon Kinesis
- Amazon OpenSearch Service
- Amazon QuickSight
- Amazon Redshift

アプリケーション統合

- Amazon EventBridge
- Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)
- Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)
- AWS Step Functions

ビジネスアプリケーション

- Amazon Connect
- Amazon Simple Email Service (Amazon SES)

クラウド財務管理

- AWS Budgets
- AWS Cost and Usage Reports
- AWS Cost Explorer
- AWS Marketplace

コンピューティング

- AWS Batch
- Amazon EC2
- AWS Elastic Beanstalk
- Amazon Lightsail
- AWS Outposts

コンテナ

- Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR)
- Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS)
- Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS)

カスタマーイネーブルメント

- AWS サポート

データベース

- Amazon Aurora

- Amazon DocumentDB
- Amazon DynamoDB
- Amazon ElastiCache
- Amazon Neptune
- Amazon RDS

デベロッパーツール

- AWS CLI
- AWS CodeBuild
- AWS CodePipeline
- AWS X-Ray

エンドユーザーコンピューティング

- Amazon AppStream 2.0
- Amazon WorkSpaces
- Amazon WorkSpaces Secure Browser

フロントエンドのウェブとモバイル

- AWS Amplify
- AWS AppSync

IoT (モノのインターネット)

- AWS IoT Core

機械学習

- Amazon Comprehend
- Amazon Kendra

- Amazon Lex
- Amazon Polly
- Amazon Q
- Amazon Rekognition
- Amazon SageMaker AI
- Amazon Textract
- Amazon Transcribe
- Amazon Translate

マネジメントとガバナンス

- AWS Auto Scaling
- AWS CloudFormation
- AWS CloudTrail
- Amazon CloudWatch
- AWS Compute Optimizer
- AWS Config
- AWS Control Tower
- AWS Health Dashboard
- AWS License Manager
- AWS マネジメントコンソール
- AWS Organizations
- AWS Service Catalog
- Service Quotas
- AWS Systems Manager
- AWS Trusted Advisor
- AWS Well-Architected Tool

移行と転送

- AWS Application Discovery Service

- AWS Application Migration Service
- AWS Database Migration Service (AWS DMS)
- Migration Evaluator
- AWS Migration Hub
- AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT)
- AWS Snow Family

ネットワークとコンテンツ配信

- Amazon API Gateway
- Amazon CloudFront
- AWS Direct Connect
- AWS Global Accelerator
- AWS PrivateLink
- Amazon Route 53
- AWS Transit Gateway
- Amazon VPC
- AWS VPN
- AWS Site-to-Site VPN
- AWS Client VPN

セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス

- AWS Artifact
- AWS Audit Manager
- AWS Certificate Manager (ACM)
- AWS CloudHSM
- Amazon Cognito
- Amazon Detective
- AWS Directory Service
- AWS Firewall Manager

- Amazon GuardDuty
- AWS Identity and Access Management (IAM)
- AWS IAM アイデンティティセンター
- Amazon Inspector
- AWS Key Management Service (AWS KMS)
- Amazon Macie
- AWS Resource Access Manager (AWS RAM)
- AWS Secrets Manager
- AWS Security Hub
- AWS Shield
- AWS WAF

サーバーレス

- AWS Fargate
- AWS Lambda

ストレージ

- AWS Backup
- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)
- Amazon Elastic File System (Amazon EFS)
- AWS Elastic Disaster Recovery
- Amazon FSx
- Amazon S3
- Amazon S3 Glacier
- AWS Storage Gateway

対象外の AWS サービス

以下に、AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02) 試験の対象外となる AWS のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合もあります。

トピック

- [分析](#)
- [アプリケーション統合](#)
- [ビジネスアプリケーション](#)
- [コンピューティング](#)
- [コスト管理](#)
- [カスタマーイネーブルメント](#)
- [クラウド財務管理](#)
- [データベース](#)
- [デベロッパーツール](#)
- [ゲーム関連テクノロジー](#)
- [IoT \(モノのインターネット\)](#)
- [機械学習](#)
- [マネジメントとガバナンス](#)
- [メディアサービス](#)
- [移行と転送](#)
- [ネットワークとコンテンツ配信](#)
- [セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス](#)
- [ロボティクス](#)
- [ストレージ](#)

分析

- Amazon AppFlow
- AWS Clean Rooms
- AWS Data Exchange

- Amazon DataZone
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK)
- Amazon Timestream for LiveAnalytics

アプリケーション統合

- AWS AppFabric
- Amazon Simple Workflow Service

ビジネスアプリケーション

- Amazon WorkDocs
- Amazon WorkMail

コンピューティング

- AWS App Runner
- AWS Copilot
- AWS Wavelength

コスト管理

- AWS Application Cost Profiler
- Amazon DevPay

カスタマイズ可能なサービス

- AWS Activate
- AWS IQ
- AWS Managed Services (AMS)

クラウド財務管理

- AWS Billing Conductor

データベース

- Amazon Keyspaces (Apache Cassandra 向け)
- Amazon MemoryDB for Redis OSS
- AWS AppConfig

デベロッパーツール

- AWS Application Composer
- AWS CodeArtifact
- AWS CodeDeploy
- Amazon CodeGuru
- AWS CloudShell
- AWS Device Farm

ゲーム関連テクノロジー

- Amazon GameLift
- Amazon Lumberyard

IoT (モノのインターネット)

- AWS IoT Device Defender
- AWS IoT Greengrass
- Amazon Monitron

機械学習

- Amazon Fraud Detector

- Amazon Lookout for Metrics
- Amazon Mechanical Turk
- AWS Panorama
- Amazon Personalize

マネジメントとガバナンス

- AWS Chatbot
- Amazon Data Lifecycle Manager
- Amazon Elastic Transcoder
- AWS Launch Wizard

メディアサービス

- AWS Elemental アプライアンスとソフトウェア
- AWS Elemental MediaConnect
- AWS Elemental MediaConvert
- AWS Elemental MediaLive
- AWS Elemental MediaPackage
- AWS Elemental MediaStore
- AWS Elemental MediaTailor
- Amazon Interactive Video Service (Amazon IVS)

移行と転送

- AWS Migration Hub Refactor Spaces
- AWS Transfer Family

ネットワークとコンテンツ配信

- AWS Cloud Map
- AWS Network Access Analyzer

- AWS Ground Station
- Amazon VPC Lattice

セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス

- Amazon Cloud Directory
- AWS Network Firewall

ロボティクス

- AWS RoboMaker

ストレージ

- Amazon FSx for Lustre

アンケート

この試験ガイドはどの程度役に立ちましたか。 ご意見をお待ちしています。 [アンケートへの回答](#)にご協力ください。